アコースティックバンド「テノヒラ」のボーカル　愛南町出身のkikuさんがつづるふるさとエッセイ

ーあいなん音故地新ー　いのちの差

5月の終わり、帰省中に野良猫を捕獲した。生まれたばかりの3匹の子猫と母猫。両親の協力もあり1カ月ほど実家でお世話をした後、全員そろって東京に引っ越した。2匹は飲食店をされているご夫婦に、1匹はアニメの脚本家の方に、そして母猫は最近仕事をリタイアされ今はボランティア活動をされているご夫婦にそれぞれ迎えられ、その後皆さんとは一緒にご飯を食べたりお酒を飲んだりする仲になった。捕獲した時、母猫は痩せてお乳も出ず数日遅ければ子猫たちは生きられなかっただろうと獣医さんに言われた命。私たちに新しい出会いをもたらし幸せと癒しをくれる命。その反面、あのまま野良猫として大きくなれば糞害（ふん）や繁殖で迷惑がられた命やったかもしれん、と思うと胸が苦しい。野良なのか飼われるのかでこんなにも差が出るのか。

私はこの出来事をきっかけに"さくらねこ"の活動に興味を持つようになった。ただ生きているだけで迷惑がられる命を増やしたくない。後先考えず勢いだけで猫たちを捕獲して、これでいいのかと自問自答していたとき友人がくれたメッセージ。

「何もしないよりずーっといい。後悔しないためにその時に全力でできることすればいい」　（テノヒラkiku）

本日！海日和!! vol.142

「現代アート」

読書の秋、スポーツの秋と言われるように、何をするにもよい季節となってきた。海の透明度も上がり、水温もまだまだ高いため、スキューバダイビングもこれからがベストシーズンである。

芸術の秋にピッタリの造形が、海の中にはたくさんある。アカヒトデは、大型のヒトデで、一本の腕の長さが30cmにもなる。岩に5本の腕でしっかりと貼りついているが、このヒトデを見つけると、いつもベリベリと岩からはがしてしまう。

何が目的かというと、ヒトデヤドリエビという1cmほどの小さなエビを探すためだ。この日も運よく見つけ、カメラに収めることができた。

撮影後、ヒトデを優しく岩の上にもどし、写真を確認すると、エビよりもヒトデの模様に感動してしまった。赤い筋と点々は、線路のようにも見え、さしずめエビは脱線した電車だろうか。亀の甲羅のような模様が続いているが、一つ一つが微妙に異なる。何のために付いているのだろうか…。秋の夜長に、謎は深まるばかりである。

【アカヒトデの腕の裏】

（撮影地：鹿島）

愛南サンゴを守る会　西尾知照（ともてる）